2022年度 実務経験のある教員等による授業科目

科目名称	単位数	科目区分	担当教員	教員経歴	授業内容
憲法	2	教養科目	沖山 延史	弁護士。使用者側の労働事件を中心に多数の訴訟、労働審判、訴外交 渉、団体交渉、労働局・労働基準監督署対応等の紛争案件を解決する一 方、就業規則類の点検・改訂、働き方対応を中心とした労務コンサルティ ング業務も扱っている(15年)。	まず日本国憲法制定史、日本国憲法の三大原理を学んだのち、国家の統治機構を概観する。第4回以降は、基本的人権に関する基本概念、及び、判例や時事問題等を取り上げ、争点を解説することにより、人権に関する理解を深める。
			佐野 知子	弁護士。一般民事のほか、会社法務、家族法まで幅広い分野に対応。また、講演経験も豊富で、ハラスメント対応、内部統制システムや危機管理を対象とした講演多数。2019年から、最高裁判所司法研修所民事弁護教官としても教鞭をとる(20年)。	
合唱3(声楽専攻) 合唱A(声楽専攻以外)	4	専門共通科目		東京二期会、新国立劇場、日生劇場、びわ湖ホール、兵庫県立芸術文化センター等、様々な舞台で数多くのオペラの演目に出演。宗教曲や合唱曲、コンサートのソリストとしても多数務める(30年)。	200名規模の合同練習の他に、パート別練習、発声・発音指導を行う。また、出演者選抜のオーディションを公演毎に実施するなど、きめ細かい指導を目指す。毎年恒例となっているベートーヴェンの第九のほか、国内外のプロオーケストラ団体からの依頼により多くの公演に出演している。授業では演奏会に向けての練習、及び出演を行う。
合唱4(声楽専攻) 合唱B(声楽専攻以外)	4				
作曲法	2		伊左治 直	室内楽作品を100曲以上、合唱作品を20曲以上発表するなど、作曲家として活動(32年)。	講義と実習を併用した形態による。作曲の原理に始まり、作曲の主要要素であるリズム・響き(和声)・旋律(及び対位法)など各方面からのアプローチによって、創作というものについて考察する。更にその発展形として、作品の構造分析・管弦楽法(楽器学)・編曲実習等にも触れる。 但し、クラスごとの特性や習熟具合によって若干内容や順番が変わることがあり、学生に応じてレッスン形式を織り交ぜるなど、臨機応変に多角的なアプローチがなされる。各自の作品は、書くだけではなく実際に演奏もしてみる。そのため授業時間内に発表会形式の日が設けられる。
			植田 彰	これまでにオーケストラ作品を10曲、室内楽作品を30曲以上発表、200曲 を超える編曲を手掛けるなど、作・編曲家として活動(24年)。	
			近江典彦	これまでにピアノ、室内楽、合唱作品を中心に30曲以上を発表し、多数の 演奏家や団体から委嘱を受けるなど、作曲家として活動(15年)	
			久田 典子	ソロ、室内楽、コンチェルト、合唱など、幅広い作品を50曲以上発表、国内外で演奏されている。またこれらの作品の楽譜が出版され、CDがリリースされるなど、作曲家として活動(33年)。	
指揮法 I	2		加納 明洋	これまでプロのオペラ団体をはじめ、合唱団や管弦楽団を指揮。近年は作曲家としても活動している(42年)。	指揮の基本的なテクニックを理解した上で、作品の様々な音楽的要求に応じて使い分けられる技術を実践的に身につける。 集団での実技指導が中心であり、上記に掲げた「指揮の技術を実践的に身につける」ために、受講生を前にして、実際に指揮する場を多く設ける。
			三原 明人	ヨーロッパと日本を中心に各地のオーケストラを指揮。パロックから現代までの幅広いレパートリーを持ち、自らもオーケストラやアンサンブルを組織して活動している。	指揮法の基本的なテクニックを取得し、スコアに書かれた音符全てを正確に手の運動で表現できる技術を身につける。
			三河 正典	国内外の多くのオーケストラ、合唱団の指揮をする他、新国立劇場、二期 会をはじめとするオペラ公演や、サイトウキネンフェスティバル、アルゲリッ チ音楽祭などでも合唱指揮者、アシスタントコンダクターとして活動してい る。	将来指揮者、指導者として指揮する現場で的確に活動できるように基礎的なテクニックや 考える力を養うほか、それぞれの実技分野でも生きる音楽に対する向き合い方、楽譜から音楽を読み取る方法などを学ぶ。
指揮法Ⅱ	2		加納 明洋	(前掲)	指揮の基本的なテクニックを理解した上で、作品の様々な音楽的要求に応じて使い分けられる実践的技術を身につける。最終的にシベリウス作曲「フィンランディア」を指揮できる技術を身につける。 将来、現場に出て狼狽することがないように、できるだけ実践的な授業を心掛ける。 即ち、受講生の前で指揮する機会を多く設け、音楽の先頭に立つ者の心構えを養ってもらう。従って、授業形態は集団での実践的な実技指導が中心である。
			三原 明人	(前掲)	スコアに書かれた音符を正確に表現できる技術を身に着けた上で、音楽的な表現を実現させるためのテクニックを取得する。
合計単位数	16			1	1